

# 食品中の放射性物質の調査結果<sup>1</sup>

## ～平成26年9・10月に採取した試料の放射性ストロンチウム及びプルトニウム濃度～

### 3. 調査の結果

放射性ストロンチウム及びプルトニウムの濃度測定を行ったMB試料の結果は、以下となった。

表 放射性ストロンチウム、プルトニウムの濃度(210試料中5試料の濃度を測定)

地域	食品群	濃度 (Bq/kg)			
		Sr-90	Pu 238	Pu 239+240	参考 (Cs-134+Cs-137)
福島県(浜通り)	6	ND(0.02)			0.51
福島県(浜通り)	8	0.060	ND	ND	0.76
福島県(中通り)	6	0.027	(0.0005 ～ 0.0008)	(0.0005 ～ 0.0008)	0.63
岩手県	5	0.046			0.80
東京都	7	0.026			0.50

ND:検出限界値未満

( )内は検出限界値を示しており、試料量、測定時間、バックグラウンド値等により変動する。

# 福島県産品の放射能濃度検査結果：米(2012～2015年)



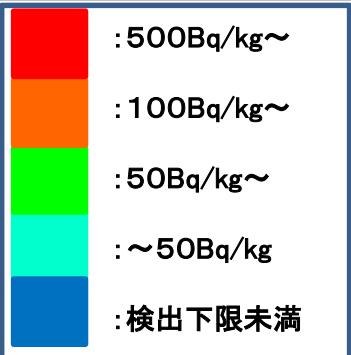
## 2015年産米は1,033万点を検査し、基準値超過なし

■検査結果：2015年3月末日現在(2015年データは2015.12.28現在の速報値)

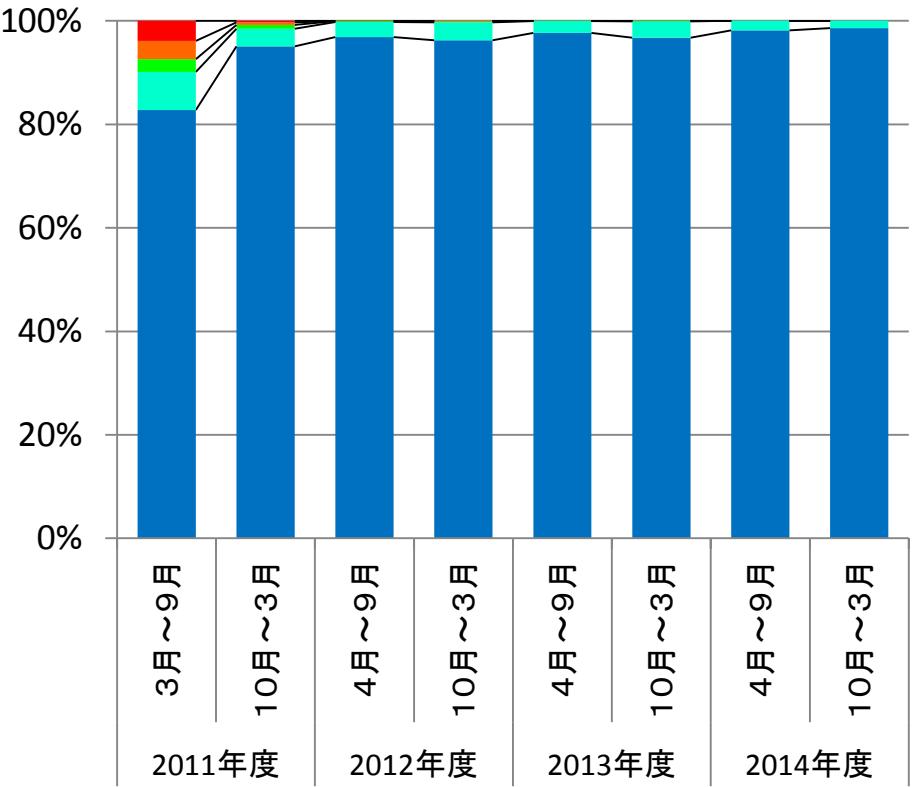
産年	放射性セシウム濃度	測定下限値未満(<25)	25～50 Bq/kg	51～75 Bq/kg	76～100 Bq/kg	100Bq/kg超	計
2015年	点数					0	10,330,000
2014年	点数	11,020,000	1,907	12	2	0(2) <sup>注</sup>	10,956,536
	割合(%)	99.98	0.017	0.0001	0.0000	0.0000	100
2013年	点数	10,999,206	6,484	493	323	28	11,006,534
	割合(%)	99.93	0.059	0.0045	0.0029	0.0003	100
2012年	点数	10,323,586	20,357	1,678	389	71	10,346,081
	割合(%)	99.78	0.197	0.0162	0.0038	0.0007	100

# 野菜・果実の年次変化(2011年3月～2015年3月)

## 野菜



放射性セシウム濃度の割合

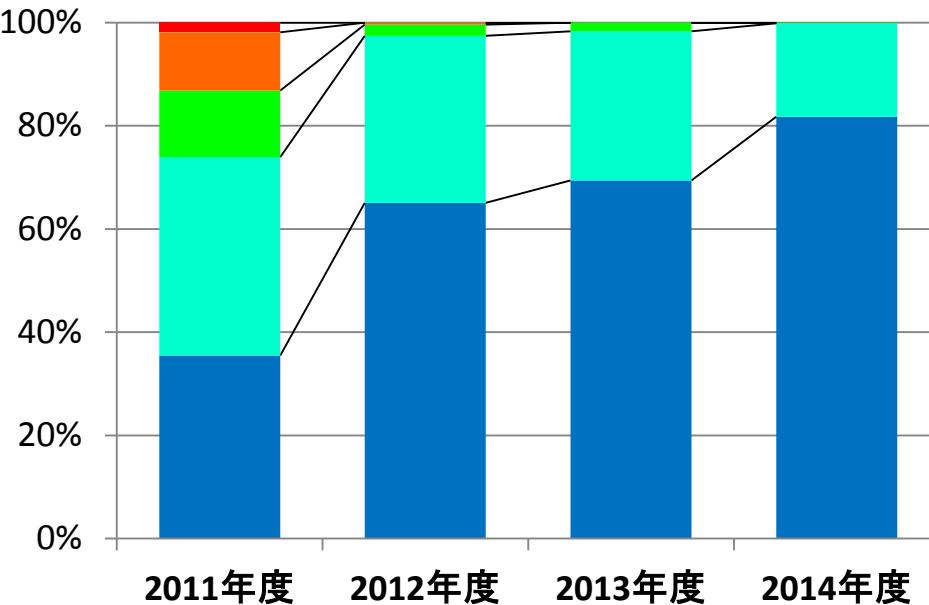


## 果実

モモ、リンゴ、ブドウ、  
日本ナシ、カキ、スモモ、  
オウトウ、ウメなど



放射性セシウム濃度の割合



2013年度以降は基準値超過なし

# 林産物の年次変化(2011年3月～2015年3月)

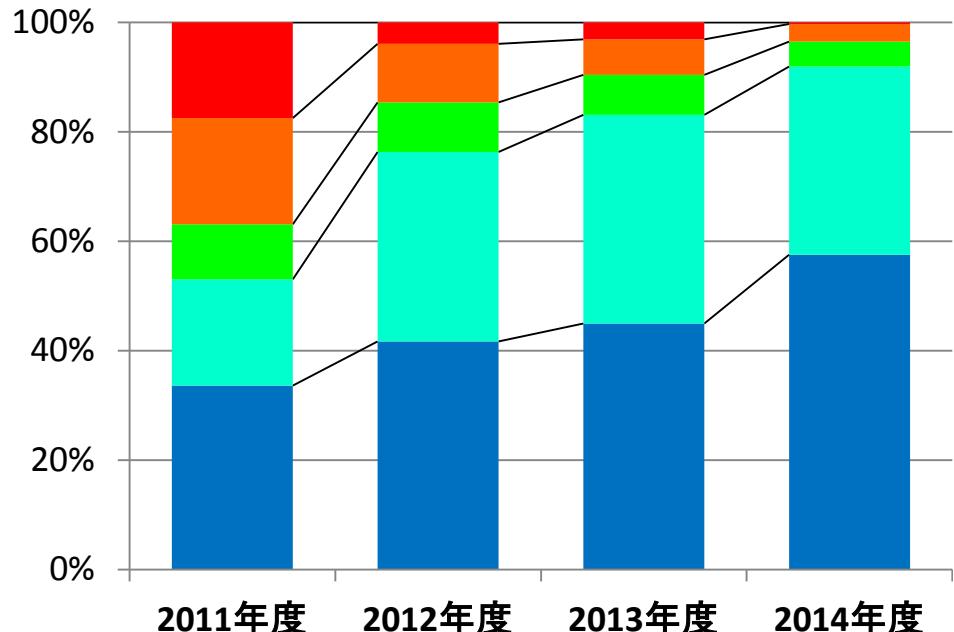
## 林産物

きのこ(野生)、山菜(野生)  
たけのこ など



:500Bq/kg～  
:100Bq/kg～  
:50Bq/kg～  
:～50Bq/kg  
:検出下限未満

放射性セシウム濃度の割合



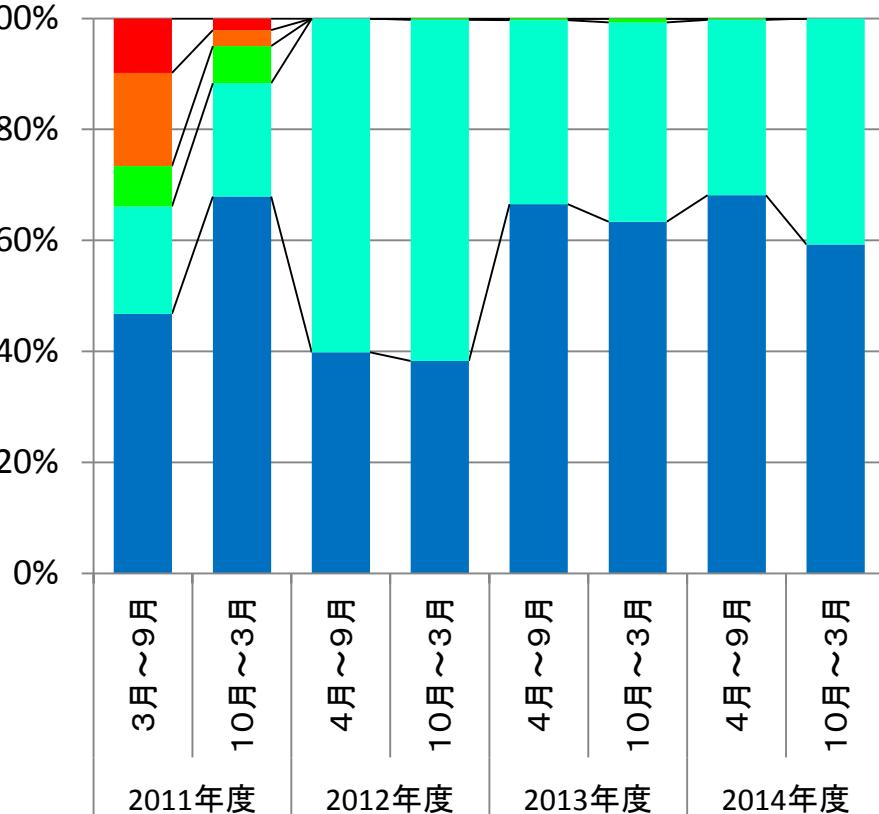
○年々、超過するものは減少

## 栽培きのこ

しいたけ(原木、菌床)、なめこ(原木、菌床)、まいたけ(原木、菌床)など



放射性セシウム濃度の割合



2012年度以降は全て基準値以下

# 水産物の年次変化(2011年3月～2015年3月)

## 水産物

魚類(海水魚、淡水魚)、  
貝類、イカ類、タコ類  
など

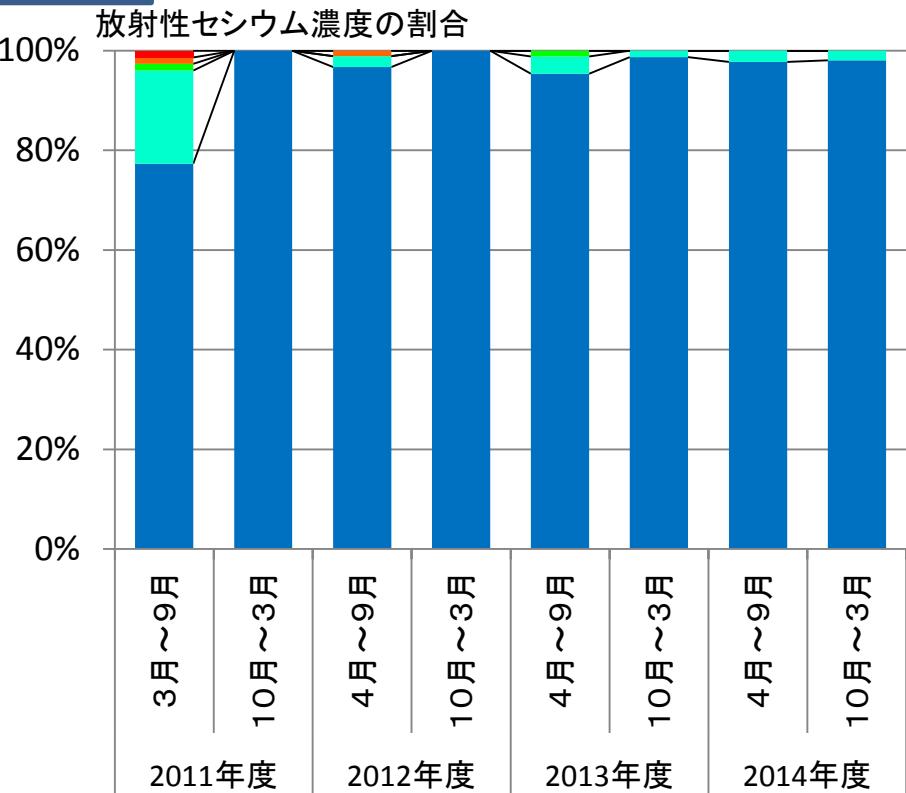
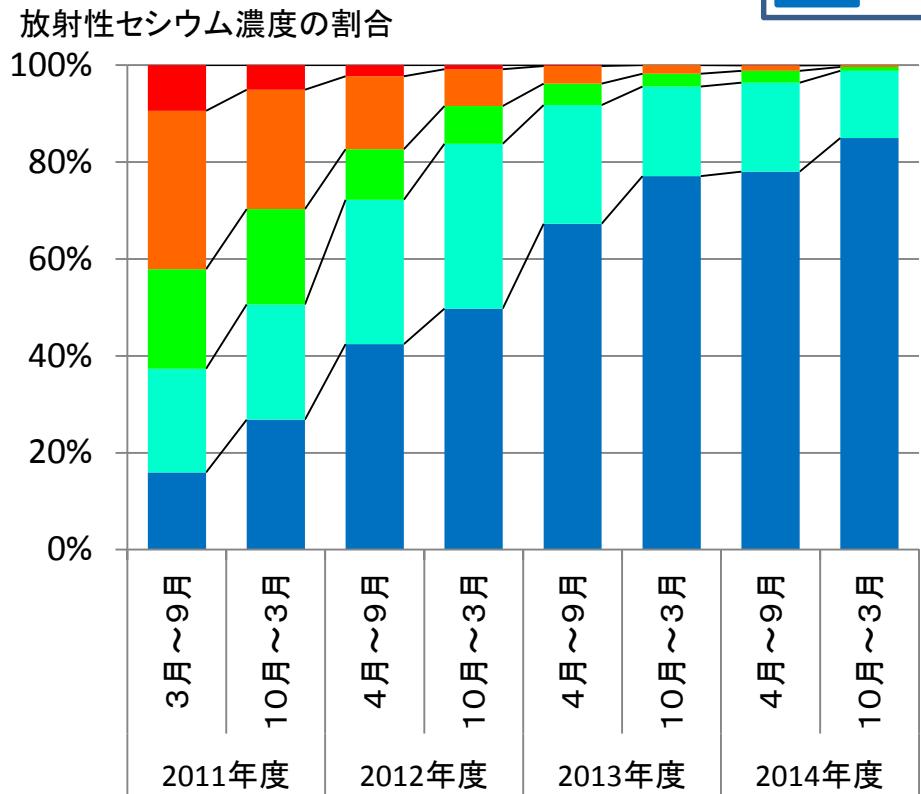


放射性セシウム濃度の基準値

500Bq/kg～
: 100Bq/kg～
: 50Bq/kg～
: ~50Bq/kg
: 検出下限未満

## 養殖魚(淡水)

アユ、イワナ、コイ など



○基準値超過は1%以下まで減少

○養殖魚は、ほとんどが検出下限値未満

# 万一基準値を超える非流通の食品を入手し、それを食べてしまった場合の被ばく線量計算例

\* イワナ(180Bq/kg)を2匹(300g:セシウム134が13Bq, セシウム137が41Bq含有)を丸ごと食べた場合

セシウム134(13Bq)+セシウム137(41Bq)が体内に入り  
 $13 \times 0.019$ (Cs-134換算係数)+ $41 \times 0.013$  (Cs-137換算係数)  
 $= 0.247 + 0.533 = \underline{0.78\text{マイクロシーベルト}}$

**<2560匹食べると約1ミリシーベルトの内部被ばく>**

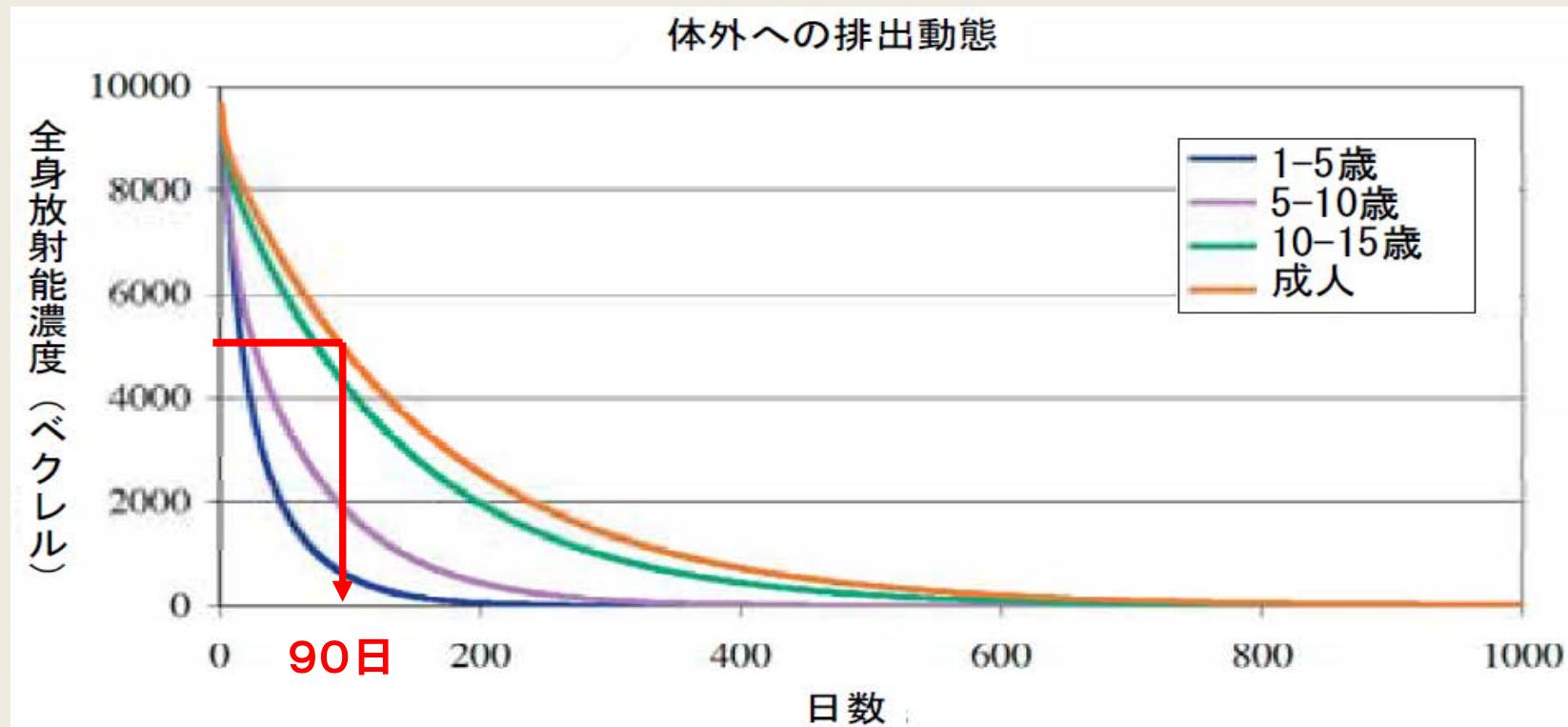
\* たらのめ(360Bq/kg)を5つ(50g:セシウム134が4Bq, セシウム137が14Bq含有)を天ぷらで食べた場合

セシウム134(4Bq)+セシウム137(14Bq)が体内に入り  
 $4 \times 0.019$ (Cs-134換算係数)+ $14 \times 0.013$  (Cs-137換算係数)  
 $= 0.076 + 0.182 = \underline{0.258\text{マイクロシーベルト}}$

**<19370個食べると約1ミリシーベルトの内部被ばく>**

☆単発の誤食で健康影響を心配する必要はないです

# 体に入ったセシウムはどのくらいで抜けていくか



セシウム137を1万ベクレル摂取した時の体外排出割合

グラフ引用:環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」

- \* 大人は約90日で半分排出される。
- \* 赤ちゃんや子ども達は新陳代謝が活発なのでセシウムを外に出す時間が大人より早い。

# 日常生活における放射線の注意点まとめ

<制限区域を除く福島県内: 2016年1月現在>

水道水: 問題ありません。 → 安心して飲めます。

井戸水、川の水、沼や池の水:

基本的に問題ありません。土砂の混入には注意。

空気: 問題ありません。 ほこりが舞っても

健康に問題のない放射能レベルに低下しています。

→ 安心して深呼吸できます！洗濯物の外干しもOK

土: 健康上問題とならないレベルの放射性物質は存在。

→ 普段の衛生的な生活

- ・手や体が泥や埃で汚れたら洗う。
- ・口に泥や砂が入ったら、飲み込まずに出す。
- ・野菜等の土は落とす。

に配慮すれば安全と健康は確保されます。

# Chernobyl and Fukushima are different

Chernobyl accident, thyroid cancer and radiation-induced diseases were diagnosed in patients, . . .

\* Due to radioactive iodine and other radioactive substances

Large amount (MBq ~ GBq order) of internal exposure

- Large-scale contamination of milk and vegetables, etc., continuous intake
- No sufficient preparedness for decontamination work, waste disposal work

\* In the case of Fukushima, based on the lesson of Chernobyl, food control was implemented early.

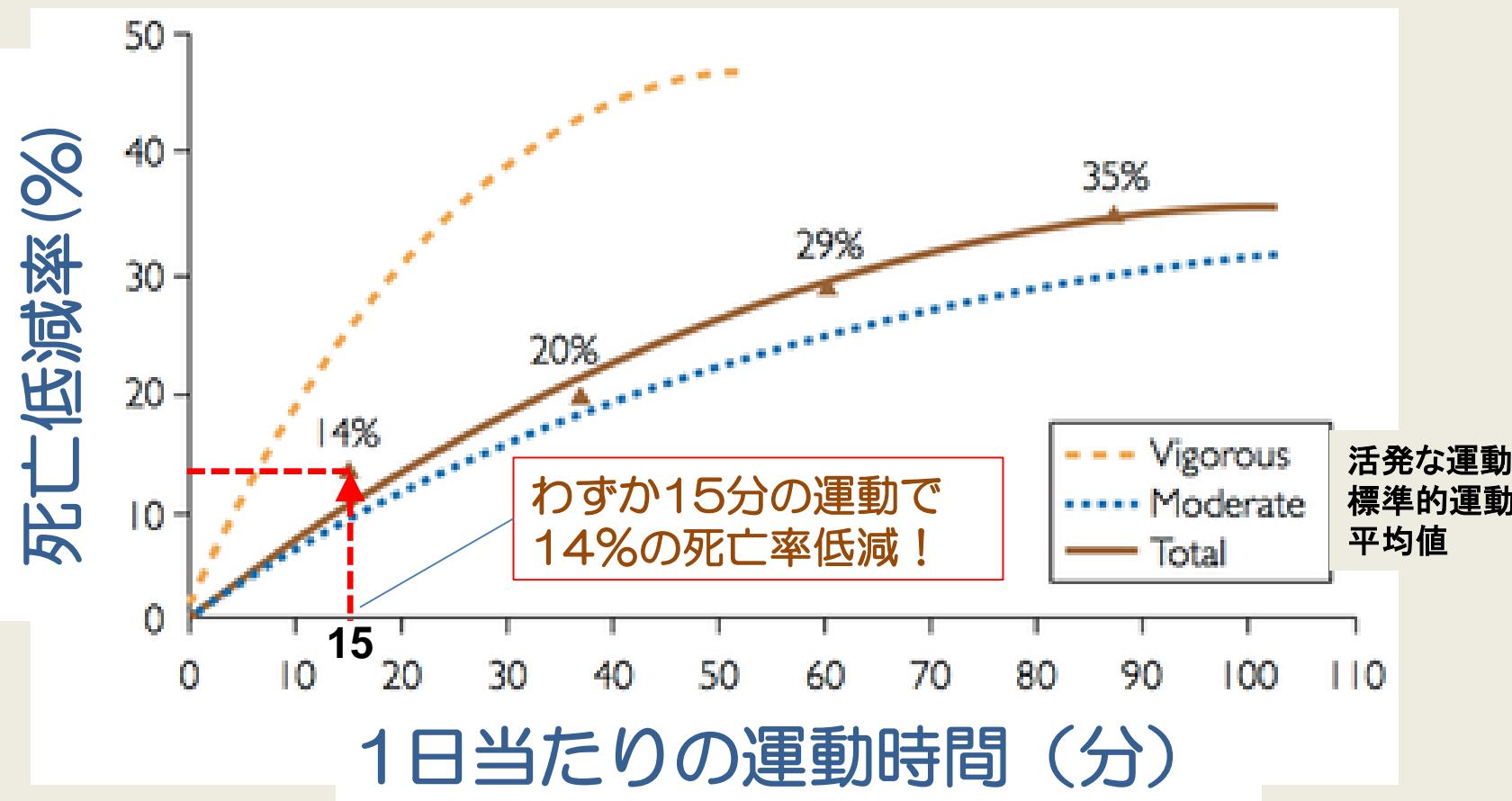
# 我々の健康、子ども達の将来

- ・震災後のデータをみると、幸いにして我々の放射線影響は限りなく少ないと判断できる。
- ・ただし、震災～避難、その後の困難な状況の体と心への影響は、決して無視出来ない。

＜これはれっきとした原子力災害のひとつ＞

- ・健康診断数の増加や生活の変化によって一時的にがん等の疾病診断数は増加の予想
- ・でも、今からでも健康と寿命を取り戻し、逆に震災前よりも健康になれる方策もある！

# 被ばくのデメリットを運動で取り戻そう！ <日々の運動時間と死亡率低減の関係>



1日15分、または1週間当たり90分の運動で、約3年の寿命延長効果有り！！

<データ参照> “Minimum amount of physical activity for reduced mortality and extended life expectancy: a prospective cohort study”, The Lancet, Volume 378, Issue 9798, Pages 1244 - 1253, 1 October 2011  
台湾での416,175名、平均8.05年における追跡コホート調査。延命効果は30歳における平均余命延長。

ご静聴ありがとうございました



転んでも



起き上がる！